

< 介護・医療連携推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション永田
所在地	(〒 940 - 0874) 新潟県長岡市永田 2 丁目 9 番 25 号		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。必要な人に必要なサービスを提供し、その人の築き上げた暮らしを支えていく。
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2020 年 12 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(6) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 3 月 26 日	出席人数 (合計)	(18) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (2人) ■市町村職員 (1人) ■地域包括支援センター職員 (1人) ■地域住民の代表者 (1人) ■利用者 (1人) ■利用者の家族 (1人) ■知見を有する者 (2人) ■医療従事者 (6人) ■その他 (3人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を考え、質の高いケアを提供する。 ・職員の負担が少ないミーティングの等の開催を実施し利用者のカンファレンスの場を増やす。 ・災害、有事の時の支援体制を活用出来るよう見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者優先にケアを提供してきた。同居家族についても理解把握し生活全般を見るような視点を持つようにした。 ・ミーティング以外でも少人数でも職員が集まる時間に話し合いを持つようにした。研修は全体研修の他に事業所内で必要になった情報を職員が調べ資料作成し回覧した。 ・災害、有事の時の支援体制の活用はなかった。コロナウイルス感染対策については園でのマニュアルを周知し対応してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に基づき利用者のケアを考え実践しているが、利用者周辺や生活全般を見極めてケアを提供していくことが望ましい。 ・定期ミーティングの開催方法はさらに工夫できるのでは？話し合いは記録に残すことも重要。 ・研修も再開方法に工夫を望む。研修後の評価も必要では。 ・災害、有事の時の不安があるよう。少しでも緩和出来るような支援体制の見直しをして下さい。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有事に対応できる柔軟なサービスを提供する。 ・医療従事者や他職種からのアドバイスをもらいながらサービス提供に努める。 ・フェニックスネットでの連携以外にもフェニックスネット未加入事業所と情報共有、連携を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の随時訪問は提供できた。 ・職員同士で連携し訪問の変更などを行うことでその時必要なケアを提供できた。 ・フェニックスネットからのアドバイスや直接アドバイスをいただきながら行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今必要なケアを考え提供できるように職員の質の向上を願います。 ・フェニックスネットは活用している。アドバイスを得るためにもっと良い方法を検討して下さい。 フェニックスネット以外でもしっかりと情報発信して連携する必要がある。

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28~32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートセンターとしての役割を考えて地域との関わりを持つ。 	<p>コロナ禍でセンターでの取り組み(永田カフェ)は中止となり出来なかった。</p>	<p>コロナ禍でも出来ることはあったと思います。事業所の情報発信が不足していると感じます。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33~34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業所の特性を活かし、利用者とのコミュニケーションをとりながら質の高いサービス提供を行う。 ・有事に対応できる体制をつくる。 ・アセスメント・評価・実行を今以上に実施し利用者の望む生活の継続を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとりながらサービスに当たった。会話の中で利用者・ご家族の要望を引き出しケアへ繋げた。訪問がストレスになる利用者家族もいられた。 ・コロナウイルス感染症の発症が身近であった際の訪問については予め利用者、ご家族へ希望を確認した。(訪問の有無・回数の変更) ・利用者からの要望を引き出すことを考え実践した。 	<p>利用者だけでなくご家族や家庭環境を考慮したサービス提供を考えてください。ストレスをかけないようにするにはどうしたらよいか考えてみて下さい。</p> <p>長期間になるので定期的に確認した方が良い。</p> <p>継続して利用者の望む生活の実現を目指してください。</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	(令和2年度) 評価結果	(令和3年度に向けて) 改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>利用者のケアを第一に考えケアを提供してきたがもっと広範囲での視点が必要だった。</p> <p>ミーティングや研修の開催や内容をもう少し考えて実践していく必要がある。</p> <p>災害時については1人ということでは不安があった。支援体制等に安心できるような仕組みが必要。</p> <p>コロナウイルス感染症について対策を構築した。</p>	<p>リモート化が進んでいるためリモートを活用し外部の研修に参加できるよう業務改善する。</p> <p>ミーティングの開催は月1回から週1回に増やす等多くの意見やカンファレンスの機会を持つ。</p> <p>研修やミーティングにて職員のケアの向上に努めていきたい。</p>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<p>ご利用者やご家族の状況を考えてサービス提供をしている。</p> <p>現在の病状の理解に乏しい方については重ねて説明。危険予測をたてリスク回避している。看護からのアドバイスを役立っている。</p>	<p>生活リズムの把握を行い適正なサービスを提案していく。</p> <p>在宅生活が継続出来るように日々の訪問時には観察する視点を持ち変化を早期発見し他職種関係者に相談していく。</p>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	他職種の業務内容を確認出来ていない(インフォーマルサービス等)	利用者に合う他職種のサービスが提案できるように情報共有していく。地域のサービスの確認をする。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 28～32)	<p>コロナ禍でサポートセンターと地域の関わり行事の開催を中止にした。</p> <p>事業所の情報発信が必要だった。</p>	<p>コロナ禍で出来ることあるのか見極めていく。</p> <p>事業所の情報発信については仕組みを構築していく。</p> <p>推進会議の場に職員がもっと参加できるように直接委員の方の意見を聞く機会を持つ。</p>
III. 結果評価 (評価項目 33～34)	<p>訪問がストレスになるご家族がいられた。ストレスを与えずにかかわることを考えてみる必要あり。</p> <p>利用者やご家族が望む生活の実現に進んできた。</p>	利用者やご家族が安心して生活できることはどういうことなのか定期随時のサービスにとらわれずに考えて提供していく。	

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します